

# 第1学年 算数科学習指導案

日 時：令和2年11月12日（木）5校時  
 児 童：男子12名 女子14名 計26名  
 指導者：教諭 荒谷 奈々子

## 1 単元名 「ひきざん」(東京書籍1年②)

### 2 単元の目標

11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。

### 3 本時の目標 (6/10)

#### (1) 目標

11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、減数と被減数の大きさによって計算しやすい方法を考え、計算の仕方を説明することができる。

#### (2) 具体の評価規準

評価の観点	おおむね満足できる	努力を要する児童への手立て
思考・判断・表現	減数と被減数の大きさに着目し、自分の計算しやすい方法を考え、ブロック操作などによって説明している。	ブロック操作を通して減加法・減々法の計算の違いに気づかせ、自分がやりやすい計算方法を選択させる。

#### (3) 研究主題との関わり

##### ①本時のねらいに沿って、児童の思考をつなげる「学び合い」の工夫・改善

- ・計算しやすいと思った理由を説明し、考えを交流することで友達の考えを知り、思考を広げさせる。(視点1:エ)

##### ②自分の学びの広がりや深まりを実感できる「振り返り」の工夫・改善

- ・やりやすい計算方法を選ぶことができたか、簡単な自己評価を行う。(視点2:ウ)
- ・今までの自分の計算の仕方と比べ、減数と被減数の大きさに着目した学習感想を発表させる。

(視点2:ア)

#### (4) 展開

※ゴシック太文字は主題との関わり

段階	学習活動と学習内容「予想される児童の反応」	指導上の留意点と評価
教える 10分	<p>1 本時の問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <math>12 - \square 3</math> <math>12 - \square 9</math> をけいさんしよう。                 </div> <p>2 課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     (ひくたすほう ひくひくほう) どちらのけいさんのしかたがかんたんか かんがえよう。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・□に入る数字によって、簡単に計算できる方法が違うことに気づかせる。</li> <li>・これまで2つの方法(減加法・減々法)を学習したことを想起させ、本時は、減数が違うそれぞれの場合によって、より計算しやすい方法を選択し、理由を説明していく学習であることを捉えさせる。</li> </ul>

<p>考えさせる 30分</p>	<p>3 計算の仕方を考える。  (1) <math>12-3</math>, <math>12-9</math>は どちらの計算 (減加法, 減々法) の仕方がよいか, 自力解決する。  (2) それぞれの考えを出し合う。  (3) 減数の数の大きさによって, 計算しやすい方法があることをまとめる。</p> <p>4 学び合いをする。  (1) 適用問題に取り組む。  ① <math>13-4</math>    ② <math>13-9</math>  2通りの方法 (減加法・減々法) を用いて問題を解く。  (2) 自分の考えを交流する。  それぞれの問題によって, 自分がどちらの方法が計算しやすいと考えたのかについて説明する。  (3) 練習問題に取り組む。  <math>11-2</math> <math>11-9</math>を解く。  ○どちらの方法で解いたか。  ○なぜ, その計算方法にしたのか。</p> <p>5 学習のまとめをする。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">ひくかずのおおきさで けいさんしやすいほうがある。</div></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・減数が4 (被減数の一位数に近い数) の時は, 減々法が計算しやすく, 減数が9 (10に近い数) の時は, 減加法が計算しやすいことを確かめる。</li> <li>・計算しやすいと思った理由を説明させることで友達の考えを受け入れ思考を広げさせる。(視点1・エ)</li> <li>・どちらの考え (減加法・減々法) も尊重しつつ, 減数に応じて計算方法を変えた児童の考え方の良さに気づかせる。</li> </ul> <p>&lt;評価&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思・判・表】</p> <p>減数と被減数の大きさに着目し, 自分の計算しやすい方法を考えブロック操作などによって説明している。</p> <p>(観察・ノート)</p> </div>
<p>まとめる 5分</p>	<p>6 本時の学習を振り返る。  ・ひく数によって, やり方が違うことが分かりました。  ・今までは1つのやり方だったけれども, ひく数によって計算の仕方を変えるようになりました。</p> <p>7 次時の見通しをもつ。  ・自分が計算しやすい仕方でのひき算練習</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な自己評価 (達成度) と学習感想 (今までの自分の計算方法と比較) を発表させる。(視点2・ウ ア)</li> </ul>

(5) 板書計画

<p>11/12</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>もんだい  <math>12-\boxed{3}</math>    <math>12-\boxed{9}</math></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひくたすほう</li> <li>・ひくひくほう</li> </ul> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>㊦ (ひくたすほう ひくひくほう)  どちらのけいさんのしかたがかんたんか かんがえよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <math>13-\boxed{4}</math>  (ブロック)  ひくかず, バラにちかい  ↓  (ひくひくほう) </div> <div style="text-align: center;"> <math>13-\boxed{9}</math>  (ブロック)  ひくかず, 10にちかい  ↓  (ひくたすほう) </div> </div> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>㊧ ひくかずのおおきさでけいさんしやすいほうがある。</p> <p style="text-align: right;">(練習問題)</p> </div>

